

ブログにおけるコメント行為：対話、ディスカッション

Commenting in blogs: Dialogues, discussion

畠山 衛、コロンビア大学

Mamoru Hatakeyama, Columbia University, mh2020@columbia.edu

要旨： ブログで訪問者からもらったコメントに対する返事の仕方は、日本語と英語で異なる傾向がある。それは、コメント行為そのものとコメントの返事への期待が異なるからであると思われる。つまり、日本語ではコメント行為は訪問者とブログ管理人との対話的であり、英語では管理人をモデレーターとした訪問者全員を含むコミュニティでのディスカッション的だと思われる。日本語学習者には日本語のブログでコメントの返事が期待されていることを伝える必要があるだろう。

キーワード： ブログ、コメント、返事

1. はじめに

最近ブログが日本語を含めた外国語教育において取り入れられている (Ishida, 2005; Pinkman, 2005; Suzuki, 2005; Ward, 2004; 江田, 2006; 佐藤, 2006; 畠山, 2007; 深井&中澤, 2007)。ブログの利用により、学習者の能動性を高め、自己相互評価導入が可能になる (佐藤 2006、深井&中澤 2007) が、ブログ活用の最大の利点は自由な自己表現を通して、クラス内学習者間だけでなく、クラス外の日本語使用者とのコミュニケーションを可能にする点であろう。そのコミュニケーションの場は、主にブログ内の各記事毎のコメント欄である。

以下に日本語および英語でのブログにおけるコメント行為の捉え方、読者の書き手に対する期待、特にコメントに対する返事について、日本語及び英語の一般向けの書籍からの記述を比較検討し、ブログの日本語教育への応用について考察する。

ただし、各言語における慣習は言語毎に統一された固定的なものではなく、実際にブログの読者が増え、そのブログ上にコミュニティが形成されるにつれて、訪問者がそのコミュニティに参加することで、同時にそのコミュニティでの慣習を作っていく (Lankshear & Knobel, 2006:4) と考えられ、一般に非同期的コミュニケーションであるとされるブログでも、個別のケースにおいては、ほぼ同期のチャットの的に使われる (Lankshear & Knobel, 2006 : 12) こともあり、コメント欄の利用方法はブログ利用者によってさまざまである。ここでは、日本語のブログ活動に参加し、その文化・慣習を能動的、批判的に捉える (神吉、佐藤、ドーア 2007) ための一般的な予備知識としてのコメント行為を検討している。

2. 日本語学習者のブログにおけるコメント

日本語学習者のブログでは、読者数（訪問者数）が少ないこともあり、もらったコメントへの返事は、教室外からの訪問者の再訪問を促し、定期的読者を確保するために重要な鍵を握る。しかし、自分が書いた記事に対してコメントをもらうのは嬉しいと思う学習者は多いにも関わらず、もらったコメントに返事をするのに積極的でない学習者も少なくない。

(Hatakeyama, 2006a)

また、Hatakeyama (2006b)のパイロット調査でも、英語使用者は日本語使用者に比べて、相手の返事を期待しないし、自分も返事をしない傾向があることが示唆された。「訪問先のブログにコメントを残した場合に何を期待するか」という質問に、英語使用者は「管理人はコメントを読むが返事はしてくれないだろう」(73.3%)という回答が最も多かったのに対し、日本語使用者の回答では「管理人はコメントを読んで返事をくれるだろう」(61.1%)という回答が最も多かった。さらに自分のブログにコメントをもらった場合にどうするかについて聞くと、日本語使用者は95%が「コメントを読んで自分の記事のコメント欄で返事をする」と答えたが、英語使用者では同じ回答を選んだ者は50%と低かった。

つまり、日本語のブログで訪問者がせっかく書いたコメントに返事がないと、訪問者の期待が満たされず、「マナー違反」などの否定的な印象を与える可能性があると言える。

3. 一般向け書籍に見るブログにおけるコメント行為

ブログに関する一般向けの書籍（以下の4点）においては、コメント行為についてどのような記述があるかを日本語と英語で比較検討した。

山下清美、川上善郎、川浦康至、三浦麻子 (2005) 『ウェブログの心理学』 NTT 出版
嶋田正邦 (2005) 『ブログ魂—これにて免許皆伝!』 あおば出版

Risdahl, A.S. (2006) *The everything blogging book*. Avon, MA: Adams Media.

Stefanac, S. (2006). *Dispatches from blogistan –a travel guide for the modern blogger-*. Berkeley, CA: New Riders.

いずれもコメント欄やブログ相互訪問、トラックバック（関連する記事を書いたときに相手に通知するリンクを送ること）などでブログ上での読者との交流を勧めているものの、コメント行為の捉え方において若干差が見られた。日本語では、ブログの書き手と読者一人一人との相互関係に重点がある一方、英語では訪問者をブログのコミュニティーの構成員としてとらえ、訪問者全体のコミュニティーへの参加度を上げることを重視する傾向が見られた。

日本語では贈答行為のメタファーが使われ、善意の「返報性」やブログ管理人と訪問者一人一人の対話の側面が強調されている。英語ではガーデニングのメタファーが使われ、訪問者に良い環境を提供するために、討論のネタになる話題を記事として書き、ブログ管理人はコメント欄でモデレーターとしてディスカッションを進め、不適切な発言は制限し、コミュ

ニティ全体の話し合いのスムーズな流れを確保することが望ましいという捉え方であった。対話ではコメントに対する返事が必要で、返事という性質上、管理人のターンで終わることが多いが、ディスカッションでは一人のターンの後に毎回モデレーターがターンを取る必要はなく、コメント欄のターンが必ずしも管理人で終わらなくてもよい。(図1参照)。

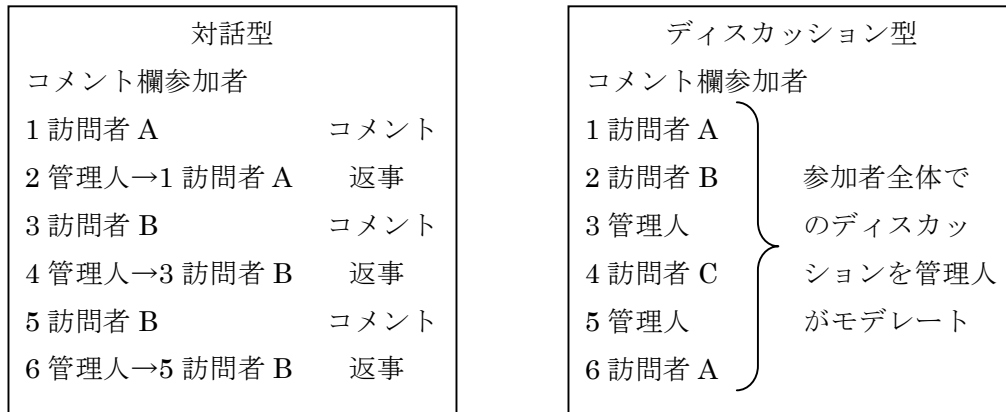


図1

4. 日本語学習へのフィードバック

日本語のブログでは、個々人の訪問者への返事が望まれる傾向がある。返事をしたからと言って、すぐにそれらの訪問者の固定客化が起こるわけではないが、学習者には「たとえ一言でも礼を言うべきだ」と考える読者が多いことを伝える必要があるだろう。

日本語のブログで、管理人対読者一人一人の対話が重視されるといっても、コメント欄で訪問者同士の対話が生まれ、それが管理人、訪問者を巻き込んで参加者間でのディスカッションにつながるわけではない。また、ブログは一部少数のブログが多くヒット数を得るといふべき分布をなす (Shirky 2003) が、日本語のブログにおいても人気ブログでは管理人は発信中心でコメント欄で読者との対話的インターアクションはない。ブログでのコメント行為が対話的になるか、ディスカッション的になるかは言語によって規範的に決まるわけではなく、個々の場合によると言える。

ソーシャルネットワークサービス (SNS) においても、日本語では義務化したコミュニケーションに疲れ切って突然やめてしまう「ミクシ疲れ」が話題になったり、ミクシ上で訪問してきたのにコメントを残さなかった場合に「読み逃げ」として非難することが行われていると同時にそれに対する困惑があったりするのは興味深い現象である。

英語のブログにおける一記事あたりのコメント数は 0.3 (Herring, et al. 2004:8) という研究があるが、今後の課題として、実際の日本語と英語のブログにおいて、どの程度の頻度でコメントが書かれ、その返事がなされるのか、実証的に検証する必要がある。

参考文献

- 江田早苗 (2006) 「ブログを使った授業活動の試み」『第18回アメリカ中部日本語教師会プロシーディングズ』225-235
- 神吉宇一、佐藤慎司、ドーア根理子 (2007) 文化、ペダゴジー、習得、テクノロジー：理論の概観と問題点 Presentation at Association of Teachers of Japanese Seminar
- 佐藤慎司 (2006) 「文化概念を超える実践：5Cの再考」『第18回アメリカ中部日本語教師会プロシーディングズ』303-314
- 畠山衛 (2007) 「日本語学習へのブログの有効利用 自由な自己表現と教室外の生の日本語・日本文化のコミュニティーへの参加のために」『日本語論叢 特別号 岩淵匡先生退職記念』
- 深井美由紀、中澤一亮 (2007) 「教室を越えたコミュニティーへの参加：日本語教育におけるブログを使った試み」 Presentation at Association of Teachers of Japanese Seminar
- Hatakeyama, M. (2006a). Blogs as a Tool For Achieving the 5 Cs CATJ 18th Annual Conference Proceedings 209-224
- Hatakeyama, M. (2006b). Commenting on blogs in English and Japanese. ms Teachers College, Columbia University
- Herring, S. C., Scheidt, L. A., Bonus, S., & Wright, E. (2004). *Bridging the gap: A genre analysis of weblogs*. Paper presented at the 37th Hawai'i International Conference on System Sciences, Los Alamitos <http://www.blogninja.com/DDGDD04.doc>.
- Ishida, M. (2005). The Online Newspaper Project: its History and New Directions Presentation at 20th South East Association of Teachers of Japanese
- Lankshear, C. & Knobel, M. (2006). Blogging as Participation : The Active Sociality of a New Literacy. Paper presented to the American Education Research Association. From <http://www.geocities.com/c.lankshear/bloggingparticipation.pdf>
- Pinkman, K. (2005). Using Blogs in the Foreign Language Classroom: Encouraging Learner Independence *The JALT CALL Journal* Vol.1(1). 12-24.
- Shirky, C. (2003). Power Laws, Weblogs, and Inequality. http://www.shirky.com/writings/powerlaw_weblog.html
- Suzuki, S. (2005). Blog Assisted Language Learning Project. Presentation at 20th South East Association of Teachers of Japanese.
- Ward, J. (2004). Blog Assisted Language Learning (BALL): Push button publishing for the pupils. *TEFL Web Journal* Vol.3 No.1 1-16.